

3 万年前の航海 徹底再現プロジェクト 竹筏舟の海峡横断テスト航海を行いました

台湾本島から緑島を目指すテスト航海の予定期間として、当初 6 月 12～14 日を予定していましたが、海況の悪化（強風とうねり）が予想されたため、6 月 10 日午前の会議で日程を繰り上げることを決断しました。ここでは昨日（6 月 11 日）早朝に出航した航海の結果について、速報します。

<背景>

- ・ 目的地の緑島は、今でこそ観光地ですが、かつては監獄だった島です。黒潮本流の真っ只中にあり、原始的な舟では到達することが難しい島です。
- ・ 昨年の草束舟の航海と同様に、舟の針路は漕ぎチームのキャプテンが、GPS やコンパスなどの現代機器を用いず、風・うねり・太陽・周囲の地形など自然のサインを読み取って決めていきました。
- ・ 出航地の大武（台東県の南部）は、この近辺で竹筏舟を陸上げできる唯一の場所（砂のビーチがある）として選びました。黒潮越えを考えるなら、もっと南から出航したいところでしたが、台湾のルールで伴走船が入れないエリアにあることから、諦めました。
- ・ 竹筏舟の海上テストの結果、安定性は申し分なく、耐久性にも優れていましたが、5 人で漕いだときの速度は、昨年の草束舟と同等で 2 ノット程度でした。

漕ぎ手

※5 人乗りですが、補欠として大部氏を追加しました。

原 康司	男	45 才	山口県（シーカヤックガイド）
鈴木克章	男	39 才	静岡県（昨年の草束舟の漕ぎ手、シーカヤックガイド）
内田沙希	女	27 才	神奈川県（昨年の草束舟の漕ぎ手）
宗 元開	男	63 才	台湾・新北市（シーカヤック国際レースで多数の優勝経験あり）
張 宏盛	男	23 才	台湾・台東市（シーカヤックガイド）
大部 渉	男	36 才	与那国島（昨年の草束舟の漕ぎ手）

漕ぎ手監督

内田正洋 男 神奈川県（プロジェクト・メンバー）

本件についてのお問合せ先：

海部陽介（プロジェクト代表）

TEL:050-5806-1671（インタネット電話）

E-mail:kaifu@kahaku.go.jp または gokaiфу@gmail.com

<6月11日のテスト航海の概要> ※時刻は現地時間です

- ・ 午前4時に、竹筏舟が大武を出航しました。
- ・ 沖を流れる強力な黒潮によって北へ押されることと、竹筏舟のスピードの限界（2ノット程度）を考慮し、最初は南へ下り、その後に東へ向かう作戦でした。
- ・ **午前の海況** 風は穏やかで、雲もあって日差しが強くないという好条件でした。時折雨も降って身体が適度に冷やされました。
- ・ 2時間半ほど南へ下った後、沖の方向へ針路を変えました。そのしばらく後から、黒潮影響下にある海域に入り、少しずつ北への流れが強くなっていきました。舟の舳は南東に向けていますが、黒潮に押されて北東へ進むという、予想通りの展開になりました。
- ・ 11:50頃に、水平線の下に隠れていた緑島の山の頂が、北東方向に見えました。漕ぎ手もそのことに気づいていました。
- ・ 12:10頃、体調不良を訴えた漕ぎ手1人が交替しました（張 → 大部）。そうした事情で舟はかなり流されましたが、この時点でほぼ計画通りの位置におり、残りの状況次第で緑島到達が可能と予測していました。
- ・ **午後の海況** 海上で雲がなくなり、日差しが強まりました。無風で身体に熱がたまっただけで、漕ぎ手は休憩を増やし、しばしば海に飛び込んで身体を冷やしました。一方で台湾本島には雲がかかって地形を読みなくなり、海上での位置の把握が困難になりました。黒潮本流の流れは強く、事前調査からの予想（3～4ノット）を上回る、5ノット程度だったと推定されます。
- ・ そうした中で、竹筏舟の航跡は、理想のコースより西側にずれていきました。
- ・ 15時頃から強い南東風（向かい風）が吹き始め、うねりも上がって、海上はしけてきました。舟の舵が効かず、南東（風上）へ舳を向けられなくなりました。そのため、海流に対するコントロールがきかず、漂流に近い状態となりました。
- ・ 18:30頃、緑島の沖10数キロの地点で日没を向えたため、テスト航海を終了しました。竹筏舟を伴走船で曳航して緑島の南寮港に入りました。

<チーム各人からの一言>

- ・ 現代機器に頼らず感覚だけを頼りにする航海は、たいへん楽しかった（原：キャプテン）
- ・ 体がボロボロで1週間静養が必要だ（宗：漕ぎ手）
- ・ とても大変な中に、面白みがあった（鈴木：漕ぎ手）
- ・ 途中棄権となり残念だが、この体験に大きな満足を感じている（張：漕ぎ手）
- ・ 黒潮海域を14時間以上も漕ぐという未知の体験ができた（内田（沙）：漕ぎ手）
- ・ 舟のスピードが上がらないと、黒潮の中で舟のコントロールができない。スピードを上げるために舟の軽量化等が課題だろう（内田（正）：漕ぎ手チーム・リーダー）

- ・ 14時間以上のタフな航海をやりきった漕ぎ手と、それを駆け回ってサポートして下さった日台の大勢の関係者に、心より感謝いたします。原始的な舟で黒潮を越えるということがどういうことなのかを実体験できたことは非常に大きく、次につながる成果が得られました。3万年前の謎に迫るために、今後も努力を続けていきたいと思えます。(海部：プロジェクト代表)

<今後の予定>

- ・ 2019年の台湾→与那国島航海を目指し、課題の整理と準備を進めていきます。
- ・ 本年度中に、もう1つの実験を計画しています。詳細は決まってからお知らせいたします。
- ・ 来年(2018年)にも台湾にて、舟つくりと海上テストを行なう予定ですが、草・竹・木の舟にするかなどの詳細は、これから検討していきます。

画像提供

報道用に下の写真・図を提供いたします。下記からダウンロードしてください。

<http://firestorage.jp/download/99a0d0329fcd87572c0f8ea7fbd21ff38d3ba4d8>
ダウンロードパスワード ce7nvtmh

- ・ 使用目的は今回の報道に限らせていただきます。
- ・ クレジット表記 提供：国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」などと記してください。短くする場合は「国立科学博物館」を削除して構いません。
- ・ トリミングして構いません。
- ・ 撮影は全て、6月11日のテスト航海時のものです。

20170611 航跡 jpeg： 竹筏舟航跡。○の地点で航海を打ち切った。

IMG_3071、IMG_3078、IMG_3083、IMG_3131、IMG_3194： 緑島を目指して航行する竹筏舟

IMG_3319： 航行する竹筏舟。中央に緑島が大きく見える。